

科目名	リハビリテーション概論			ナンバリング	ZBH136	授業形態	講義
対象学年	1年	開講時期	前期	科目分類	必修	単位数	1単位
代表教員	関 晴朗	担当教員	荻原久佳				

授業の概要	リハビリテーションの全体像を学び、リハビリテーション専門職に求められるヒューマンズムと倫理観を養うとともに、理学療法のある方を明確に成ることを目指す。その主な学修内容は、リハビリテーションの概念、理念、歴史、リハビリテーションの対象となる障害、障害の意味(国際障害分類および国際生活機能分類による)、障害者の種別と人数、障害者の心理、リハビリテーションチームの構成と関連職種、リハビリテーションの関係施設(病院リハ、高齢者入所施設リハ、通所リハ、訪問リハ等)、リハビリテーションの諸制度と関係法規および行政に関することである。						
到達目標	1. リハビリテーションの概念について理解し、リハビリテーションの概要を説明できる。 2. リハビリテーションはチーム医療であり、活動の範囲は広範囲にわたることを理解する。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	予め教科書に目を通し、講義内容のアウトラインを把握しておく。また講義終了後は提示した資料を含めて再度読み直し、知識の整理をする。専門的な項目などで理解できない点があれば積極的に質問してほしい。いずれにせよ、知識は与えられるものではなく、自ら求めていく姿勢が重要である。						
ディプロマポリシーとの 関連	【健康医療科学部理学療法学科のディプロマポリシー】						
	○	1	広い視野と豊かな教養に基づき、健康の維持・増進およびリハビリテーション専門職の担い手としてふさわしいヒューマンズムと倫理観を身につけている。				
		2	地域に住む人々の健康・医療課題を的確に把握し、疾病や障害を予防することや、疾病や障害から生ずる身体機能および能力の回復・改善を促すことを通して、積極的に地域貢献できる能力と態度を身につけている。				
		3	健康・医療に関わる課題を解決するために、理学療法の専門的な過程を用いて根拠に基づいた科学的思考が展開でき、優れた理学療法技術を駆使して日常生活活動に関わる基本動作や身体能力の維持・改善に対する支援ができる。				
	○	4	健康・医療に関わる理学療法の専門家として科学と健康・医療の進展に対応するために、生涯にわたって持続可能な主体的且つ能動的な学修ができる。				

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①リハビリテーションの概念と、今日に至るまでの流れを理解する。 ②リハビリテーションスタッフに求められる基本的姿勢を理解し、身につける。 ③国際生活機能分類(ICF)の概要を理解する。 ④チーム医療を担う一員として必要な基本的知識、倫理観を身につける。	①今日に至るリハビリテーションの概念を説明できる。 ②国際生活機能分類(ICF)の考え方を活用できる。 ③リハビリテーションに関連する諸制度や関連法規について理解を深める。

成績評価観点	評価方法						
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○						60%
小テスト・授業内レポート		○	○		○		30%
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加		○	○				10%

課題、評価のフィードバック	manabaを使用して、フィードバックを行う。
---------------	-------------------------

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	リハビリテーションの理念と歴史	リハビリテーション医学の成立と歴史, これまでの流れについて	
	第2回	リハビリテーションの領域とリハスタッフに求められるもの	リハビリテーション医学の関与する領域の概観, リハビリテーションスタッフに求められる資質(ヒューマニズムと倫理観)などについて	
	第3回	廃用症候群, 回復期リハビリテーションと生活期リハビリテーション	リハビリテーションの対象となる主な疾患の経過と, 病期毎のリハビリテーションの基本方針について	
	第4回	国際障害分類と国際生活機能分類	世界保健機構(WHO)による分類の変化についてー国際障害分類(ICIDH)から国際生活機能分類(ICF)へ	
	第5回	リハビリテーションチームの構成	リハビリテーション科医, PT, OT, ST, 看護師, MSWなどから構成されるチーム医療の実際について、	
	第6回	リハビリテーションにおける機能評価	リハビリテーション医療において用いられる代表的な評価尺度について	
	第7回	リハビリテーションで用いられる装具, 補助器具	代表的な装具の特徴と適応, 選択について	
	第8回	医療・社会福祉と法律	リハビリテーションに関する社会福祉制度と法律について	
	試験	全講義終了後に期末試験(筆記試験)を実施する。試験範囲は全範囲とする。		
授業の進め方	講義と質疑応答を基本とする。			
授業外学習の指示	講義の後には配付資料と教科書を再度読み込み, 復習する。興味のある項目やよく理解できなかった項目については, 指定した参考書にも当たってみる。その過程でなお不明な点が残った場合は教員に質問する。また, できるだけ次回の講義予定部分の教科書にも目を通しておく。(予習 90分、復習 90分) (授業外学習時間: 毎週 分)			

教科書	PT・OT・ST・ナースを目指す人のためのリハビリテーション総論(改定第3版), 椿原彰夫編著, 診断と治療社, 3,600円(税別), ISBN978-4-7878-2345-8
参考書	最新リハビリテーション医学(第3版), 江藤文夫, 里宇明元監修, 阿保雅博, 上月正博, 羽賀信彦編集, 医歯薬出版株式会社, 6,400円(税別), ISBN978-4-263-21730-6 その他講義中に随時資料を配付する。
参考URLなど	日本リハビリテーション医学会ホームページ <a href="http://www.jarm.or.jp/">http://www.jarm.or.jp/</a>
その他	